

セミナー名：教育セミナー-5

座長

防衛医科大学校病院
医療安全・感染対策部

結城 篤先生

演者

琉球大学大学院 医学研究科
感染症・呼吸器・消化器内科学講座

金城 武士先生

演題

呼吸器感染症の 遺伝子診断

— 新型コロナウイルスの話題も含めて —

オンデマンド配信期間

2021年1月29日(金) — 2月28日(日)

ご視聴方法や詳しい情報につきましては、学会HPをご確認いただきますようお願いいたします。

<http://web.apollon.nta.co.jp/jscm32/index.html>

テーマ

呼吸器感染症の遺伝子診断 —新型コロナウイルスの話題も含めて—

琉球大学大学院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座

金城 武士先生

呼吸器感染症の病原体検査には、グラム染色に代表される検鏡検査、培養同定検査、イムノクロマト法による迅速抗原検査、抗体検査などが行われる。しかし、日常診療で行われる検鏡検査や培養同定検査では、マイコプラズマなどの非定型病原体やウイルスの検出はできない。イムノクロマト法による迅速抗原検査は外来やベットサイドで簡単に施行でき、短時間で結果を得られることが大きなメリットであるが、一般的に感度が低いのが欠点である。抗体検査は感染初期の偽陰性、また過去の感染を反映した偽陽性の問題が常につきまとう。このように現状法では、マイコプラズマに代表される非定型病原体や呼吸器ウイルスの診断は十分に行われているとはいえ遺伝子検査が有用であるが、本邦は海外と比べて遺伝子検査が十分普及していない現状がある。

当科では2012年から多項目の呼吸器病原体を一度に検査できる遺伝子検査を用い、特に原因不明の呼吸器感染症に使用してきた。特にアウトブレイク状況下において遺伝子検査は有用であり、我々はこれまでに8つの原因不明呼吸器感染症アウトブレイクにおいて原因ウイルスを特定できている。本講演では呼吸器ウイルス感染症について概説し、その診断における遺伝子検査の有用性と課題について述べる。また、新型コロナウイルスの検査についてもお話ししたい。

後半では、非結核性抗酸菌症における遺伝子診断について概説する。我々の研究から、沖縄県では特に難治性である肺アブセッサス症が多い可能性が示唆されたが、アブセッサスは亜種によって薬剤感受性が異なることが知られている。したがって、亜種レベルまでの同定が臨床上重要であるが、現状の検査体制は十分とはいえない。本講演では、非結核性抗酸菌症の疫学、そして検査の現状と課題についてもお話しする予定である。